

大阪船場地区における企業・昼間市民等によるまちづくり活動について

株式会社 オーユーアール都市開発機構 梶木 盛也

1. はじめに

都市再生、とりわけ都心部再生の必要性が叫ばれている。三大都市圏のうち、関西圏は産業構造の特性から、首都圏や中京圏と比べて落ち込みが激しく、関西圏の最大都市であり歴史的背景を多く有する大阪の衰退が著しい。都市再生による活性化は、東京のように規制緩和で需要が顕在化する、経済ポテンシャルの高い都市では有効であるが、それ以外の都市では規制緩和だけでは不十分であり、都市の魅力そのものを高めていく必要があると言われている。

船場地区を含む「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域」は都市再生緊急整備地域や構造改革特区に指定され、各種規制緩和を通じて活性化が図られようとしているが、企業の統廃合や卸売機能の低下による経済活力の低下、歩車混在の歩行者環境や水・緑空間などのアメニティ欠如、住宅や居住支援機能の不足による人口回帰の遅れなどにより、その効果が現れているとは言い難い状況にある。

ところで、都市の魅力向上に欠かせないまちづくりは、市民・住民が担うべきものと言われている。しかし大都市圏都心部の土地利用は業務・商業等の非住居系が中心であり、現在まちづくりが最も必要とされている都心部に、その主役となる住民が殆どいず、住民の高齢化と相まって効果的なまちづくりが行えない問題点がある。船場地区（土佐堀川・東横堀川・長堀通り・旧西横堀川で囲まれた範囲で約230ヘクタール）を見ると、H12年国勢調査では2,196世帯・3,868人（16.8人/ha）と、大阪市の人口密度118人/haの1/7であり、住民によるまちづくりの難しさが窺える。一方、中央区全体では常住人口55,324人に対して昼間人口は523,897人もあり、昼夜間人口比は974%にも及ぶ。業務機能が集中する船場地区では、昼夜間人口比はこれ以上と推測される。

企業の集積度合いや就業者等昼間人口の多さから、船場のまちづくりの担い手として、住民だけでなく企業や昼間市民の働きが期待できる。船場には以前よりまちづくり活動がみられるが、この数年、特に企業や昼間市民が参加する新しいまちづくり活動が発生している。

本稿は住民・企業・昼間市民によるまちづくり活動を調査し、これらの活動を比較分析することで、従来担い手としてあまり着目されてこなかった企業、そして昼間市民による活動の特徴を明らかにすると同時に、今後の活動や役割の可能性について考察することを目的とする。

2. 調査の方法

現在、船場地区でまちづくりに取り組む団体・グループを[表1]に示す。これ以外にも存在が確認できる団体・グループがあるが、実質的・主体的にまちづくり活動を行っていないもの、そのメンバーが[表1]の団体・グループとほぼ同一で名称が異なるもの、これらの団体・グループの連絡調整会的な存在であるもの、の3種類は除外している。また船場地区の住民組織として愛日・集英・船場・汎愛・久宝・浪華・芦池・渥美の8連合振興町会があるが、まちづくり活動は行われていない。

[表1] 船場地区のまちづくり団体・グループ

記号	団体・グループ
A	堺筋アメニティソサエティ（堺筋アメリ）
B	御堂筋まちづくりネットワーク（御堂筋TMO）
C	長堀21世紀計画の会（長堀21計画）
D	都市大阪創生研究会（創生研）
E	船場ギャザリング（ギャザリング）
F	船場夢舞台（夢舞台）

調査はこれらの団体・グループが発行するパンフレットや会則、会報、報告書、ウェブページ等により活動の目的、活動内容、対象エリア、会員等について調査した。さらにヒアリングを行い、資料調査では把握することが困難な部分を補足した。

3. 各団体・グループの状況

各団体・グループの組織や活動の状況を[表2]に示す。

[表2] 各団体・グループの状況

	A 堺筋アメニティ ソサエティ	B 御堂筋まちづくり ネットワーク	C 長堀21世紀 計画の会	D 都市大阪 創生研究会	E 船場ギャザリング	F 船場夢舞台
活動の背景	景観面や利便性、感覚面において高いアメニティを現出させているとは言えず、御堂筋などと比べて個性・特徴に欠ける部分があり堺筋の魅力が少なくしている。	金融機関の統廃合等による御堂筋の空室率上昇、特に1階部分の閉鎖による賑わいの喪失やイメージの低下が問題となっており、御堂筋にふさわしくない用途が立地する恐れもある。	都心に憩いとるおおいを創出するため、長堀通りの公園化を目指そうとした。	今、改めて都市における居住と文化、産業の在り方を再構築する方向を見つけたす必要があるという問題意識。新しい時代のリノベーションは、市民的な支持を得ながら、行政・民間のパートナーシップによって実現されるべきと言う考え。	大阪の商業の原点とも言える中船場地区の衰退が著しいこと。(シャッター通り、ガレージ通りなど)	船場はかつての股賑が影をひそめている。このまま何もせず、ただ儲けしか考えない商売や、社会貢献を忘れた経済活動だけを繰り返しているだけでは、やがては船場の町を衰退させてしまう。
活動の目的	堺筋沿道企業が、市民企業として主体的に、自らが立地する堺筋のまちづくりに取り組み、国際都市大阪の都心幹線道路にふさわしい世界に誇り得る個性的なまちの形成を目的とする。 [会則]	御堂筋が「活力と風格有るビジネス街」として維持発展することを旨とし、地元の見点から地区の課題と改善策を検討し、活性化に向けて行動することを目的とする。 [会則]	心斎橋・長堀地域の将来についての街づくりの在り方等に関して、会員の力を結集して研究し、地域住民の生活文化の向上と、商業の振興策を考え、地域の活性化を図ることを目的とする。 [会則]	官民のパートナーシップの中でディベロッパーの果たす役割は大きく、研究会を大阪の未来とそこに至るべき道を考える場とする。 [趣意書]	船場に住む人・働く人、経済人・知識人、地元商店会など、ディベロッパー、企業及びベンチャービジネス、都市計画・資金等でサポートする都市公団・大阪市・産業創造館・投資家・企業、の3者が共に考え、行動し、情報交換し、役割分担しながら、実現具体的な手法によって、活性化を図ることを目的とする。 [提案書]	船場を「文化や芸を育て、商いとバランスのとれたイキイキした町」に再生すること。 [趣意書]
活動内容	堺筋のアメニティ向上、堺筋のPR、堺筋の活性化、沿道企業相互の情報交換、行政との意見交換、中長期のまちづくりコンセプトの検討立案、その他 [会則]	地元の視点による地区の課題と改善策を検討、活性化に向けた行動。 会則には具体的な指定無し	地域住民、地域企業等の意向を踏まえた街づくりの提案、近隣地域の環境整備(清掃活動を中心に)、まちの活性化のための各種イベント、研修会等の開催、長堀カード会員の拡大、チャリティー活動(バザーなど)の推進、会員(周辺の賛同者を含む)との異業種交流 [会則]	地域の歴史文化等の研究や実態把握、分析。まちのビジョンと整備内容の検討・提案。	テナントスペースの確保、テナントの誘致、まちの活性化とテナント支援 [提案書]	落語会やコンサートの開催。アートや芸を発表する機会や場所の開設。
活動事例	「クリーンキャンペーン(集団一斉清掃活動)」、「堺筋アメニティウィーク(展示活動他)」、「堺筋ミュージック・フェスタ(コンサート開催)」、「堺筋の今昔(セミナー開催)」など	御堂筋の将来像検討と提言、「御堂筋まちづくりシンポジウム」の開催、講演会、音楽会、展示会などの開催など。	まちのビジョン検討、街づくり憲章の制定。長堀通り整備の提言・要望。カーニバルやショー・ウィンドウコンテストの開催。	他の事例や構想の研究把握。地域の歴史文化等の研究や実態把握、分析。まちのビジョンと整備内容の検討・提案。	ベンチャー店舗(衣料品販売、餃子専門店)やコラボレーション店舗(パンの販売と陶芸教室、飲食店舗とミニFM&ギャラリー)の出店。コンバージョンSOHOの賃貸事業。船場活性化のための情報交換。	長谷川きよしソロライブ、船場熱血落語ライブなどの開催。「船場夢舞台(ホール)」の運営。
活動エリア	土佐堀通りから千日前通りまでの堺筋及び堺筋の東西1筋目(堺筋沿道)	土佐堀通りから本町通りまでの御堂筋沿道東西1街区	南船場2・3・4丁目、西心斎橋1丁目、心斎橋筋1丁目、東心斎橋1丁目(長堀通り沿道)	特定のエリアは定めていないが、これまでの研究対象エリア(実績)は船場地区および大川から中之島にかけて。	中船場地区(北:本町、南:博労町、西:御堂筋、東:堺筋)特に南久宝寺通り商店街と井池ストリートを中心に [提案書]	特に限定されていないが、久宝寺町卸売連盟会館地下に「船場夢舞台(ホール)」を設けている。
会員の概要	堺筋沿道(北浜通りから千日前通りまでの堺筋及び堺筋の東西1筋目)に立地する企業、事務所、団体(ビルオーナー、テナントいずれも可) [会則]	御堂筋沿道で土佐堀通りから中央大通りの間に不動産を所有する法人または個人。 [会則]	長堀・心斎橋の地域住民企業・団体を中心に構成 [パンフ]	ディベロッパー及び建築都市計画分野のコンサルタント[申し合わせ事項]	異業種交流団体である「寄合びんご」の有志で構成	地域商店主等を中心として構成(船場夢舞台は船場賑わいの会の有志が中心となって結成)
会員数他	47社 (2001.4.1現在)	30社+1特別会員 (2002.11.1現在)	158社+9名 (2000.9.1現在)	60名 (16社+3団体)	9名 (8社+1団体)	6名
都市計画専門家の加入	無し	有り	有り	有り	無し	無し
組織構成	総会の下に連絡責任者会議を置き、まちづくり委員会、PR事業推進委員会、アメニティ向上委員会を設ける。代表幹事(山原一晃)中工務局専務取締役、事務局(中工務局内)	総会の下にまちづくり検討会を置き、プロモーション部会、規制改革検討部会を設ける。代表幹事(山原一晃)中工務局専務取締役、事務局(中工務局内)	総会の下に三役会を置き、長堀・心斎橋開発室、財務室、美化緑花室、親睦活動室を設ける。理事長(成松孝氏(山王))事務局(吉田正雄氏(大丸))	全体研究会の下にテーマ毎のワーキンググループを適宜設ける。座長(鳴海邦碩教授(大阪大学大学院))	特になし 代表(井上哲郎氏(モアイ代表取締役))	特になし 代表(林利治氏(林庄代表取締役))
会則の有無	有り	有り	有り	無し	無し	無し
設立	1993年3月17日	2001年12月12日	1982年2月27日	1998年	2001年	2003年3月
出典	パンフレットおよび会則、会報、ヒアリング	パンフレットおよび会則、まちづくり提言書、ウェブページ、ヒアリング	パンフレットおよび会則、ウェブページ、ヒアリング	設立趣意書、研究活動報告書、ヒアリング、その他	船場げんき提案 提案書、ヒアリング	会報、ウェブページ、ヒアリング
備考						

(1) 活動の背景・目的

活動の背景としては、船場地区の「活力低下」がB・E・Fの3件、「アメニティの欠如」がA・Cの2件、「都市再構築の必要性」がDの1件となっている。活動の目的は「活性化」がB・C・E・Fの4件、「個性的なまちの形成」がAの1件、「ネットワーク形成」がDの1件である。

(2) 主な活動エリア

活動エリアは船場全体を対象とするものから、特定の道路(筋・通り)を対象とするものまで様々である。活動実績を踏まえると、御堂筋・堺筋や長堀通りなどの幹線道路沿道(A・B・C)、本町通りから博労町にかけて繊維問屋が集中する中船場エリア(E・F)、船場全体(D)の3つに大別できる。[図1]

(3) 活動メンバー

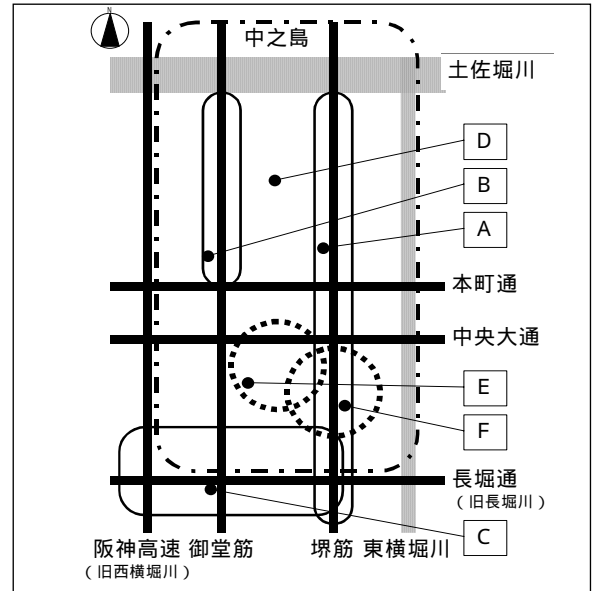
会員名簿によると、企業等の組織名だけが記載されている団体等(組織単位の参加)と、個人名と所属が併記されている団体等(個人単位の参加)の2つに分類できる。また会則やパンフレット、ヒアリングから、活動対象エリアに立地・居住する企業・自営業者・住民を中心として構成される団体等(地権者の立場の強い活動)と、船場地区に勤務する就業者他によって構成される団体等(昼間市民の立場の強い活動)とも分類することができる。

組織名や所属団体名から、都市計画や建築分野の専門家がコンサルタントとしてではなく、まちづくりメンバーとしての一人として参加していると判断できる団体・グループも見られる。(B・C・D)[表3]

(4) 活動の内容

活動の内容は、地区の現状分析や整備提案などを行う「将来像提案」、シンポジウムやコンサートなどを開催する「賑わい創出」、空店舗を借上げ運営(貸出)を行う「インキュベート」、まちの魅力伝達やイベント・施設の案内などを行う「情報発信」、清掃・美化などの「環境改善」の5つに分類される。

このうち、「将来像提案」はB・C・Dで実施され、「賑わい創出」はA・B・C・Fで実施、またEで計画中有。 「インキュベート」はE・Fで実施され、「情報発信」はA・B・C・Fで取り組み済みである。「環境改善」として、清掃・美化活動にA・Cの2団体が取り組んでいるが、生活支援や防犯・防災活動などの取り組みは見られない。なおDでは過去の提案の実効性を見るため、社会実験を計画中有。[表4]



[図1] 各団体・グループの主な活動エリア

[表3] 活動メンバーの分類 (下線は専門家の参加有)

名簿	立場	
	地権者の立場	昼間市民の立場
組織名 (組織単位の参加)	A: 堺筋アメン B: 御堂筋TMO C: 長堀21計画	
個人名+所属 (個人単位の参加)	F: 夢舞台	D: 創生研 E: ギャザリング

[表4] まちづくり活動の内容

種類	活動内容	A: 堺筋アメン	B: 御堂筋TMO	C: 長堀21計画	D: 創生研	E: ギャザリング	F: 夢舞台
将来像提案	まちの歴史や現況の調査、課題分析						
	まちの将来像や整備アイデアの提案						
	地区計画や協定等のルール制定		(地区計画)	(街づくり憲章)			
賑わい創出	シンポやコンサート等イベント開催				(社会実験として計画中)	(秋に実施予定)	
インキュベート	空店舗の借り上げと運営など				(社会実験として計画中)	(店舗・ギャラリ-運営)	(ホール運営)
情報発信	まちの魅力伝達等の情報発信活動	(会報の発行)	(HPの開設)	(HPの開設)	(社会実験として計画中)		(HP開設・会報発行)
環境改善	清掃・緑化活動						
	防犯・防災活動						
	福祉・生活支援						

4. 船場におけるまちづくり活動の特徴

以上、組織や活動の状況から、船場におけるまちづくり活動の特徴は、以下のように整理できる。

住民や自営業者等の活動は少なく、企業や昼間市民による活動が中心となっている。

地区の活性化を目的とするものが多い。

活動対象エリアは、船場の顔ともいえる幹線道路と、活性化が強く求められる中船場エリアである。昼間市民が個人の立場で集まり、まちづくりを行っている。

都市や建築の専門家が、コンサルタントとしてではなく、市民としてまちづくりに参加している。

活動の種類は、「将来像提案」「賑わい創出」「情報発信」が主流である。

現況調査や課題分析を踏まえた提案活動は、専門家が参加する団体・グループに限られている。

特徴 ・ そして は、船場地区が直面している地区の衰退を考慮すると、自然な結果と言えよう。最初に述べたように、船場地区は夜間人口が極端に少なく、地区内活動の大部分は企業や昼間市民によるものであるが、企業の移転や規模縮小により活力が低下しており、活性化が求められている。活性化を求める声は、船場の代表的エリアである幹線道路の沿道や、主要産業（繊維等の卸売業）の集積する中船場で強くなる。また、「賑わい創出」や「情報発信」活動は、地区の活性化を実現する上で必要な手段と考えられる。同時に、活性化を進める中で、まちの姿が大きく変化する可能性が有り、将来像の模索・提案が行われていると考えられる。

これに対して、特徴 ・ は活性化とは関係が薄く、昼夜間人口比が大きい都心部における特徴と考えられる。住宅の中に店舗や事務所等が混在する市街地においては、十分な数の住民に昼間市民が加わってまちづくりを展開することが可能であるが、昼間人口が夜間の10倍近い船場では自ずと企業や昼間市民の果たす役割が大きくならざるを得ない。

また、特徴 は一定規模の専門家集団が存在する大都市都心部においてのみ成り立つケースであり、船場地区特有の現象とすることができよう。これら専門家集団の職能が問題発見・目標設定型まちづくり（特徴）の基礎となっていることは容易に類推できる。

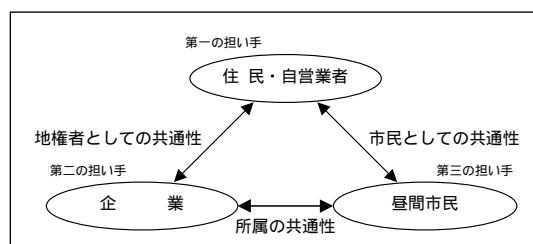
5. おわりに

従来、まちづくりの主役は市民・住民が担うべきであり、その中で企業がどのように参加していくかが問われてきた部分がある。しかし、再生が強く求められながらも夜間人口が少ない大都市都心部では、企業が果たすべき役割は相対的に大きくなる。本稿は、船場の活性化のために企業が果たしている役割が大きいことを明らかにした。今後は、企業のまちづくりに住民がどのように参加していくかが問われてこよう。

あわせて、就業者等の昼間市民がまちづくりで果たす役割が大きいことも明らかになった。

これまで都心部で一日の大半を過ごす昼間市民は「市民」という言葉の中に含まれ、あえて区別されることなく、未分化のまま住民と一体的に扱われてきたところがある。しかし、地権者であるか否かの点では、住民と昼間市民の間には大きな相違がある。例えば、地区計画や建築協定等のルール制定や行政に対する要望などの部分において昼間市民は当事者となり得ず、住民とは立場を異にする。一方で、昼間市民は日頃から企業の判断・行動パターンに精通し、また住民のネットワークとは異なる周辺企業や行政とのネットワークを有していることから、企業と住民、行政の仲介役となることが期待される。このような特徴を考慮すると、住民＝企業の関係に新たに加わる第三のまちづくりの担い手として昼間市民の役割を明確化し、新たな位置づけを与えていくべきではないかと考えられる。[図2]

さらに、専門家がコンサルタントの立場でなく、昼間市民の一人として、まちづくりに取り組む事例があることが明らかになった。このような活動はその専門的知識と企業や行政等とのネットワークを土台にして、まちづくりに様々な影響を与えていると考えられるが、これについては今後の研究課題としたい。



[図2] まちづくりの担い手